第三者評価義務化への対応――
大学評価の制度化―― 私立大学の選択

2002 年 12 月　7 日（土）

時 間	講　義　項　目
13：00 ～ 14：30	□ **［論点整理］大学の質を高めるための評価とは何か** ～課題の明確化と私立大学の選択～ 国立学校財務センター　**天野 郁夫** 〈インタビュアー〉教育ジャーナリスト　**山岸 駿介** １．中教審の「大学の質」答申をどうとらえるか ２．政府による「機関認証」「補助金」と大学の自律・自治 ３．米国のアクレディテーションと今回の第三者評価機関による評価との違い ４．大学基準協会、大学評価・学位授与機構、私大協の新設評価機関はどう違うか ５．私立大学は“第三者評価機関”をどう育てうるか　〈質疑応答〉
14：40 ～ 15：20	□ **大学変革の推進力としての評価活動** ～私立大学にとっての第三者評価の要件～ 拓殖大学　**草原 克豪** １．大学評価と私立大学の対応 ２．第三者評価と自己点検・評価の関係 ３．評価の主体と目的――誰が何のために評価するのか ４．評価の方法論――コストパフォーマンス ５．評価の活用――戦略的大学経営 ６．大学評価に対する政府の関わり方　〈質疑応答〉
15：30 ～ 16：10	□ **第三者評価の決め手** ～自己点検・評価をいかに書くか～ 大学評価・学位授与機構　**米澤 彰純** 第三者評価が成功するかどうかの鍵は、提出される自己評価書がきちんと書かれているかにかかっているといっても、過言ではない。自己点検・評価の目的は、このプロセスにおいて自らの活動を点検・評価することで、自己改善を図るとともに、関係者や第三者に対してその活動と自己改善のシステムについて明示することにある。単純に評価スコアをあげるためのテクニックというものは、本来評価システムが認めるものではないし、長期的には意味がない。しかしながら、評価者が正確な評価ができる形で書かれた自己評価書は案外少ない。模範解答的な自己評価書はないし、自己評価書が画一化することは望ましくない。その前提に立った上で、「きちんと伝わる」自己評価書の書き方について、経験に基づいて、フロアと共に議論をしてみたい。　〈質疑応答〉
16：20 ～ 17：50	□ **［パネル討論］どう第三者評価を実現させるか―個別大学の選択** ～大学基準協会・評価機構・私大協新設評価機関の三者三態を踏まえて～ 〈司会〉　**山岸 駿介** ／ 教育ジャーナリスト 〈パネリスト〉**安間 敏雄** ／ 大学評価・学位授与機構　**澤田 進** ／ (財)大学基準協会 **原野 幸康** ／ 日本私立大学協会　**濱 堯夫** ／ 神戸学院大学 １．第三者評価をどう行うか (1)　どのような評価活動か　(2)　だれを評価者とし、その育成は (3)　必要な資金とその調達法　(4)　国との関係は　(5)　結果をどこまで公表するか ２．望ましい第三者評価活動とは (1)　私立大学にとっての外部評価　(2)　改善・改革サイクルと自己評価 (3)　第三者評価機関をどう育てるか ３．個別大学にとっての選択 (1)　評価機関の選択基準　(2)　社会評価のための戦略的情報公開
18：00 ～ 19：00	□ **［懇親パーティ］パネリスト陣・司会者を囲んで** ゲストによるショートスピーチ 「病院の第三者評価からみて大学は･･･」 **浅田 敏雄** ／ 21 世紀総合教育研究機構